

2016年4月1日

報道関係者各位

株式会社キャピタル・アイ

## ◎BEST DEALS OF 2015 を選出： IPO で郵政 3 社、SB でファーストリテイリング

キャピタルアイ・ニュースは 1 日、キャピタル・アイ Awards“BEST DEALS OF 2015”を発表した。引受証券会社と機関投資家へのアンケートをもとに編集部審査を加え、2015 年度の債券・株式発行市場における優良案件・発行体を選出した。

大型案件でデビューしたファーストリテイリング、初の公募ハイブリッド債を発行した三菱商事が普通社債部門で受賞。日本高速道路保有・債務返済機構が 40 年債を復活させ、JR西日本が民間で初めてこの年限の発行を実現した。毎四半期の最初にフェアな水準での起債を継続する日本政策投資銀行は財投機関債等部門の Issuer で受賞した。地方債ではマイナス金利という前代未聞の状況に柔軟に対応した福岡市、水準調整の先頭に立った埼玉県と愛知県が高い評価を受けている。

2 兆円近い RMBS を安定的に供給し続けた住宅金融支援機構が証券化部門で、シニア・劣後の 6 本立てで選択肢を提供したクレディ・アグリコル、思い切ったスプレッド調整をしたクレディ・スイスがサムライ債部門で受賞。三菱UFJフィナンシャル・グループ(MUFG)と日本生命保険の資本性商品は外債部門で高い評価を得た。投資家との信頼関係構築に注力しているBPCEはサムライ債の Issuer で受賞した。ソフトバンクグループのドル・ユーロ建て債は日本の大型ハイイールド物として注目を集めた。MUFGは邦銀の資本性商品の牽引役を内外の市場で務めた。

郵政民営化の大きな区切りで「貯蓄から投資へ」の象徴であり、当年度で最も注目された日本郵政グループ 3 社の上場案件は圧倒的な支持を受けてIPO 部門で受賞。グローバル・オファリングと国内CBの同時発行で成長ストーリーを見せつけたソニー、世界的な投資グループをスポンサーに 1600 億円のポートフォリオで登場したラサールロジポート投資法人のIPO、インバウンドのホテル需要による成長を取り込んで2回のオファリングを実施したインヴィンシブル投資法人、アップ率を固定するというストラクチャーで注目を集めたユニ・チャームのCBが、各部門で受賞している。また、個人株主創出のための新スキームであるトヨタ自動車の種類株式は特別部門で受賞した。

以下が授賞リスト(〈 〉内は主幹事/株式のグローバル案件はグローバル・コーディネーター、日付は条件決定日/決議日)。

## 普通社債部門

### BEST DEALS OF 2015

第1回 ファーストリテイリング債	12月11日	3年	300億円
第2回 ファーストリテイリング債	12月11日	5年	1000億円
第3回 ファーストリテイリング債	12月11日	7年	500億円
第4回 ファーストリテイリング債	12月11日	10年	700億円

〈野村/SMBC日興/三菱UFJモルガン・スタンレー〉

圧倒的な知名度と信用力の高さを武器に社債市場にデビューした。良好な財務内容も投資家の関心を引き付け、総額2500億円を円滑に消化した。ホールセールのプレーン事業債では当年度最大。短期から長期までの4年限を組み合わせで選択肢を与え、発行規模に見合ったスプレッドを確保したことで、延べ1400件以上が参加し、6000億円の需要を集めた。低金利で縮小しつつあった社債市場の活性化に大きく貢献した。

### BEST DEALS OF 2015

劣後変動第1回 三菱商事債	6月12日	60年 (NC5)	680億円
劣後第2回 三菱商事債	6月12日	60年 (NC5)	920億円
劣後第3回 三菱商事債	6月12日	60年 (NC10)	400億円

〈三菱UFJモルガン・スタンレー〉

本邦初の公募でのハイブリッド債。コールの蓋然性を高める商品設計としつつ、相対的に高い利回りとスプレッドが低利にあえぐ投資家に訴求した。本格的なPOT方式による透明性の高いプライシングの導入も国内初の試みだった。6000億円を上回る需要を獲得し、後続案件に道を拓いた。調達サイドにとっても資本効率(ROE)の向上と財務の健全性を両立する有効なファイナンス手法であることを示した。

### 特別賞

第42回 JR西日本債	2月19日	40年	100億円
-------------	-------	-----	-------

〈みずほ/三菱UFJモルガン・スタンレー〉

民間会社で最長かつ初の40年債の起債を実現。日本銀行が1月29日にマイナス金利政策を導入して以降、ベース金利が長期ゾーンまでマイナス圏に沈むなか、利回り確保のために年限を伸ばす投資家の購入意欲が高まったタイミングを捉えて登場した。超長期債の主要層である生保のみならず、1.5%台後半という絶対値の魅力で地方投資家の需要も取り込み、発行額の3倍近い需要を獲得した。

## 普通社債/外債部門

### BEST ISSUER OF 2015

#### 三菱UFJフィナンシャル・グループ

国内と海外の両市場で、邦銀の資本性商品の先駆者・牽引役を務めた。国内では機関投資家向けB3T2劣後債の発行を継続するとともに、7月に国内個人向けとして初めてのB3T2債を800億円発行。3月には個人向けの第2弾・2000億円、国内公募2回目のAT1債3000億円、これとほぼ同時期に邦銀初のTLAC規制対応シニア債を50億ドルというまとまった額で発行した。

## 財投機関債等部門

### BEST DEAL OF 2015

第 153 回 日本高速道路保有・債務返済機構債 6 月 3 日 40 年 300 億円

〈みずほ/三菱UFJモルガン・スタンレー/SMBC日興〉

6 年 2 カ月ぶりに 40 年債を一般債で復活させ、300 億円を順調に消化した。低金利の環境下で投資家のこの年限に対する需要を掘り起こし、当年度は 3 回の起債で 1100 億円を供給した。同債を起点に民間会社の 40 年債が続き、超長期債市場の活性化に寄与した。

### BEST ISSUER OF 2015

日本政策投資銀行

毎四半期初にフェアな水準を示す起債を継続し、ベンチマークとして信任を得ている。下期初にはDBJ法改正後、初となる 10 年債を発行し、半期ごとの定例化に向けた布石を打った。財投機関債のカテゴリーでは 11 年 8 カ月ぶりの定時償還債も 1 月に起債。年度を通じて 11 本・2550 億円を供給した。

## 地方債等部門

### BEST DEAL OF 2015

20 年第 3 回 埼玉県債 1 月 15 日 定時償還 20 年 100 億円

〈大和/三菱UFJモルガン・スタンレー/みずほ〉

行き過ぎたタイト化で長らく需要が減退していた公募定時償還債を復活させた案件。先行銘柄の水準にこだわらず、流通実勢や投資家の目線を踏まえた MS+2 ケタのスプレッドを打ち出し需要を喚起した。新規の参加や復活を促して同カテゴリーを安定に導いた。

### BEST DEAL OF 2015

平成 27 年度第 8 回 福岡市債 3 月 2 日 5 年 200 億円

〈SMBC日興/バークレイズ/三菱UFJモルガン・スタンレー〉

ベース金利が深くマイナスに沈んで指標性を失い、投資判断の基準が利回りに移行していたなか、絶対値でマーケティングし条件決定する手法を採用した。投資家の目線に沿った利回りを示して安心感を与えたうえ、国債スプレッドでプライシングされた同日の銘柄より低利の調達を実現した。

### BEST ISSUER OF 2015

愛知県

基幹年限の 10 年債で交渉と主幹事方式を併用し、主幹事方式の際には柔軟性を生かして月の先頭に立った。9 月債では、流通実勢との乖離を埋めるべくスプレッドをワイド方向に調整し、マイナス金利導入直後の 2 月債では、散逸した投資家目線を再構築する役割を果たした。当年度から主幹事方式に移行した 5 年債は 5 月に国債カーブ+5bp へ調整し、5 年物地方債の安定消化に結びついた。

## サムライ債部門

### BEST DEALS OF 2015

第7回 クレディ・アグリコル債	6月19日	5年	846億円
第8回 クレディ・アグリコル債	6月19日	10年	43億円
変動第4回 クレディ・アグリコル債	6月19日	4年	111億円
劣後第1回 クレディ・アグリコル債	6月19日	10年	176億円
劣後第2回 クレディ・アグリコル債	6月19日	10年 (NC5)	121億円
劣後変動第3回 クレディ・アグリコル債	6月19日	10年	102億円

〈クレディ・アグリコル/大和/三菱UFJモルガン・スタンレー/みずほ/野村/SMBC日興〉

金融危機以降初となるシニア・劣後債の同時発行。ギリシャ問題でマーケットが荒れ、ボラティリティも高まって投資家の警戒が強まったタイミングに、異なる商品性の債券を組み合わせただけでなく6本立てとして幅広い選択肢を投資家に提供した。マーケットの声に耳を傾け、柔軟に年限設定をしたことが、逆風下の環境でほぼ1400億円という規模のディールを可能にした。

### 特別賞

第5回 クレディ・スイス債	7月10日	3年	77億円
第6回 クレディ・スイス債	7月10日	5年	841億円
第7回 クレディ・スイス債	7月10日	7年	74億円
第8回 クレディ・スイス債	7月10日	10年	56億円
変動第2回 クレディ・スイス債	7月10日	3年	23億円
変動第3回 クレディ・スイス債	7月10日	5年	29億円

〈クレディ・スイス/三菱UFJモルガン・スタンレー/みずほ/SMBC日興/大和〉

ギリシャ問題でマーケットが荒れ、投資家のスプレッド目線が切り上がったところで、先行銘柄にとらわれずに適正水準を追求し、シングル A 格欧州物の居所を変えた。思い切ったスプレッド調整がマーケティング中の中国株急落への強い抵抗にもなり、総額1100億円のディールを実現した。5年債のL+18bpは、この格付けクラスの最優遇スプレッドだった1カ月前の+10bpから8bp厚く、その後の案件で水準を見直す機運を作った。

### BEST ISSUER OF 2015

#### B P C E

サムライ債市場での総額1680億円の供給は年度最大。シニア・劣後債の同時起債となった12月は、インデックスプレーヤー向けに格付けを取得し、新たな投資家の取り込みで1000億円規模のディールに仕上げた。IRではビジネスモデルの説明やクレジットのアップデートを行うだけでなく、資金調達計画を投資家と共有。密なコミュニケーションによる信頼関係の構築がマーケットでのプレゼンス向上に寄与した。

## 証券化部門

### BEST DEAL OF 2015

該当なし

## BEST ISSUER OF 2015

### 住宅金融支援機構

1兆8753億円のRMBSを供給する国内最大の発行体。ギリシャ問題や中国経済への懸念、資源価格の下落、日米欧の金融政策などで市場の変動が大きくなる局面でも月例の発行を安定的にこなした。8月に節目の第100回債を発行。1月の第105回債は未証券化部分の繰り越しで発行額は1993億円と、この2年で最大の発行額となった。マイナス金利導入後の2月の第106回債も円滑に消化し、スプレッドのタイト化を実現した。

## 外債部門

### BEST DEALS OF 2015

三菱UFJフィナンシャル・グループ グローバルドル債	2月23日	5年	21億ドル
三菱UFJフィナンシャル・グループ グローバルドル債	2月23日	10年	25億ドル
三菱UFJフィナンシャル・グループ グローバルドル変動債	2月23日	5年	4億ドル

〈モルガン・スタンレー/三菱UFJ/JPモルガン〉

邦銀グループによる初のTLAC適格債。世界的に金融機関への懸念が強まるなど、難しい起債環境で、クレジット・ストーリーとTLACの枠組みへの理解を浸透させたうえで登場し、総額50億ドルのメガディールを成功裏に終えた。案件の人気化とプライシング後の良好なパフォーマンスが後続銘柄に好影響を及ぼし、邦銀TLAC債の地位を一気に確立した。

### 特別賞

日本生命保険 グローバルドル劣後債	1月13日	30年 (NC10)	15億ドル
-------------------	-------	------------	-------

〈ゴールドマン・サックス/シティグループ/モルガン・スタンレー〉

本邦生保銘柄で初の5%割れを実現し、日本物の強さを改めて示した案件。年初からの世界的なリスクオフでボラティリティが高まり、金利も下がるなど、環境が不安定なうえにハイブリッド債の発行難度が上がるタイミングだった。ロードショーでの好反応を支えに、状況を見極めての登場と5%近辺での会話が投資家の関心を引き寄せ、4.70%で決まった。その後のグローバル市場でのベンチマーク的存在となった。

### 特別賞

ソフトバンクグループ ユーロドル債	7月22日	7年	10億ドル
ソフトバンクグループ ユーロドル債	7月22日	10年	10億ドル
ソフトバンクグループ ユーロ債	7月22日	7年	5億ユーロ
ソフトバンクグループ ユーロ債	7月22日	10年	12億5000万ユーロ
ソフトバンクグループ ユーロ債	7月22日	12年	5億ユーロ

〈ドイツ/ゴールドマン・サックス/みずほ/モルガン・スタンレー/メリルリンチ/クレディ・アグリコル/野村〉

本邦ハイイールド銘柄として初のドル・ユーロ建て債の発行と年限の長期化を実現した。総額5000億円超という規模を考慮した水準で、投資適格級・ハイイールド双方の投資家を呼び込み、350件を上回るプレーヤーの参加と2兆円に迫る需要を獲得した。ビジネスモデルとクレジット・ストーリーの浸透に加え、ギリシャ問題で揺れていたマーケットが落ち着くタイミングを見極めての登場が成功を支えた。

## Equity 特別部門

### BEST DEAL OF 2015

トヨタ自動車第1回AA型種類株式 6月16日 公募：4710万株 4991億6580万円  
〈野村〉

中長期で保有する個人株主を創出するために考案された革新的な案件。議決権付き、事実上の元本保証、上限2.5%の配当といった工夫を凝らしたスキームが耳目を集め、新たな投資家層の開拓にも成功した。発行額と同額の自社株買いも実施し、既存株主にも配慮した。

## 新規公開株式 公募・売出版門

### BEST DEALS OF 2015

日本郵政 11月4日上場 売出：4億9500万株 6930億円  
ゆうちょ銀行 11月4日上場 売出：4億1244万2300株 5980億4133万5000円  
かんぽ生命保険 11月4日上場 売出：6600万株 1452億円  
〈野村/三菱UFJモルガン・スタンレー/ゴールドマン・サックス/JPモルガン〉

本邦初となる親子3社同時上場を達成した大型民営化案件。1998年のNTTドコモ以来の規模だった。市場関係者から「歴史に残るディール」と評された。高い知名度からリテール、ホールセールともに類を見ないほど多くの投資家が参加し、株式市場全体の活性化に貢献。「貯蓄から投資へ」の流れを印象付ける案件となった。

### BEST ISSUER OF 2015

該当なし

## 既公開株式 公募・売出版門／転換社債型新株予約権付社債部門

### BEST DEALS OF 2015

ソニー 6月30日 公募：8720万株 2982億6760万円  
〈野村/JPモルガン/モルガン・スタンレー〉  
ソニー 第6回国内CB 6月30日 7年 1200億円  
〈野村/SMBC日興/三菱UFJモルガン・スタンレー〉

グローバルPOと国内CBの同時発行で総額約4200億円のメガディール。圧倒的なネームバリューを背景に旺盛な需要を集めた。構造改革にメドを付け、デバイス分野の設備・研究開発費を調達するというエクイティ・ストーリーも好感されている。

## 既公開株式 公募・売出版門

### BEST ISSUER OF 2015

該当なし

## 不動産投資信託証券部門

### BEST DEAL OF 2015

ラサールロジポート投資法人      2月17日上場      公募：105万800口      1050億8000万円  
〈野村/モルガン・スタンレー/みずほ〉

不動産投資大手の米ラサールグループをスポンサーとし、東京・大阪エリアの A クラス物件に重点投資する物流特化型リート。投資家目線のディール運営とポートフォリオの質の高さで支持を集め、マイナス金利政策の公表を追い風に旺盛な需要を創出。久々の大型 IPO を成功に導き、市場の拡大に寄与した。

### BEST ISSUER OF 2015

#### インヴィンシブル投資法人

インバウンド需要に伴うホテルセクターの成長を取り込むべく、年度内で 2 回のグローバル・オファリングを実施。分配金の成長率の高さや変動賃料の導入、充実したスポンサーパイプラインで、持続的な成長が期待できる銘柄として投資家から高評価を受けている。

## 転換社債型新株予約権付社債部門

### BEST DEAL OF 2015

ユニ・チャーム ユーロ円 CB      9月8日      5年      500億円  
〈SMBC日興〉

アップ率を固定し、高い募集価格でマーケティングを行う国内初のストラクチャー。調達額の最大化と株式への早期転換を希望する発行体のニーズに対応した柔軟な商品設計が支持された。CB の可能性を広げ、新たなニーズの掘り起こしに寄与した功績も大きい。

### BEST ISSUER OF 2015

該当なし

#### ■キャピタル・アイ Awards とは：

当年度の資本市場でなされたファイナンスのなかで最も優れた案件は何か、発行体は誰か、普通社債、財投機関債、地方債、サムライ債、外債（日本企業による海外発行債）、証券化、新規公開株式、既公開株式、不動産投資信託証券（J-REIT）、転換社債型新株予約権付社債（CB）の各部門にわたって引受証券会社と機関投資家へアンケートを実施。回答をもとに、市場に円滑に受け入れられたか、市場にとって意義があったか、市場の発展や活性化に資するかなどの観点で編集部が選出し、表彰する。

◆株式会社キャピタル・アイについて

所在地:東京都千代田区西神田 3-1-6 日本弘道会ビル 2 階

設立:2006 年 7 月

資本金:8 千万円

主な事業の内容:金融市場に関するオンライン情報サービス(ニュース及びデータベース等)

金融専門誌や関連書籍の製作・発行

【債券・株式資本市場のプロフェッショナル向けリアルタイム情報サービス「キャピタルアイ・ニュース」を提供しています。債券分野では普通社債、財投機関債、政府保証債など債券発行市場を幅広くカバーし、一般債セカンダリー市場や CDS 市場、CP 市場などのニュースも配信しています。株式分野では株式、不動産投資信託証券、転換社債型新株予約権付社債のほか、M&A 関連や貸株の市場動向などを報道しています。】

ホームページ <https://c-eye.ne.jp/>

【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社キャピタル・アイ

編集部:菊地健之 03-6826-4721